

第2次野田市男女共同参画計画（素案）に対する意見募集の結果について

パブリックコメント手続によって寄せられた意見と市の考え方は、次のとおりです。

1 計画等の題名

第2次野田市男女共同参画計画（素案）

2 意見募集の概要

(1) 計画等の案の公表日（意見募集期間）

平成22年2月1日（月）から平成22年3月3日（水）まで

(2) 意見募集結果

提出者数・意見数	3人	6件
提出方法	直接持参	1人 2件
	郵送	0人 0件
	FAX	0人 0件
	Eメール	2人 4件
計画等に反映した意見		1件

3 意見と市の考え方

意見の概要と市の考え方

	意見の概要	市の考え方	案の修正
全体			
1	「障がい」表記を国の障がい者制度改革推進会議で「障害」の表記の在り方の検討結果までは、「障害」表記でいきませんか。	国の文化審議会の漢字小委員会で障害者団体から要望の多い「碍」の字を常用漢字に追加することが検討されており、追加された場合、国の法律名も変更となることから、市の計画等の改訂における、ひらがな表記を一時見合わせ、国の動向を見極めることとします。 従って本計画の表記も「障害」に戻すこととします。 (P37～39、P73～75)	修正有り

	意見の概要	市の考え方	案の修正
第1章 計画の策定に当たって 第3章 計画の内容			
	3 男女共同参画をめぐる現状 基本目標 ワーク・ライフ・バランスの推進		
2	<p>「第1章計画の策定に当たって」の「3 男女共同参画をめぐる現状」に基礎資料として、市職員の登用の男女比率、女性管理職の比率などを載せるべきではないでしょうか。</p> <p>そして、性による差別のない真の男女平等が達成される社会の実現や、固定的な性別役割分担意識による不適切な対応をしないことの模範を示すために、市職員の登用の男女比率、女性管理職の比率目標を、「第3章 計画の内容」の「基本目標 ワーク・ライフ・バランスの推進」基本課題1 男女が働きやすい環境の整備充実現」の中で示すべきである。民間企業への啓発につなげる具体策として必要であると考えます。</p>	<p>市職員の登用の男女比率につきましては、募集・応募・採用といった手続を経て、成績を考慮して決定するものであって、男女比率の目標値を示し、女性職員を増員することではないと考えております。</p> <p>市では、女性が働きやすい職場環境の整備や子育て環境を整備充実させることが女性職員の登用に反映されると考えております。(P59)</p> <p>女性管理職の比率につきましては、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)による女性職員の人材育成や能力活用といった表現で、管理職の登用を推進しています。(P54~55)</p> <p>したがいまして、市職員の男女比率及び女性管理職の比率につきましては、数値化するのではなく、働きやすい環境づくりや人材育成と考え、素案のままとします。</p>	修正無し
第3章 計画の内容			
	基本目標 人権尊重と男女平等が確保された社会づくり		
3	DVの防止については、子どもの時からの啓発が欠かせない。	「デートDV」の啓発につきましては、市としても同様の考えを持っており、本計画	修正無し

	意見の概要	市の考え方	案の修正
	婚姻関係以外でも、若い世代のデートDVの問題が現実には起きている現状を捉えていないし、市の計画にはこの視点が全く入っていない。第3章 計画の内容」の「(1)人権尊重意識の啓発」で具体的施策として、学校や市報での「デートDV」の啓発を盛り込むべきではないか。	の「基本目標 女性に対するあらゆる暴力の根絶」、「基本課題1 ドメスティック・バイオレンス対策の充実」、「(1)DV被害防止に向けた意識啓発の推進」の具体的施策の中で、DV被害防止に向けた若年層への意識啓発の推進を位置付けており(P47)、「デートDV」について若い世代への啓発を進めることとしております。	
第3章 計画の内容			
	基本目標 ワーク・ライフ・バランスの推進		
4	野田市は、合計特殊出生率が全国平均や千葉県平均を下回っており、これは育児・介護が容易ではなく、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)がはかられていないことが原因であり、若い世代が野田市を魅力的に感じないひとつの原因とも言える。 市の男性職員が育児休暇をとった事がない現実を見ても、明らかといえる。まずは市男性職員の育児休暇目標を数値として示す事が必要ではないか。	市では、「次世代育成支援対策推進法」に基づいた「野田市特定事業主行動計画」を策定しており、市男性職員及び女性職員の育児休業等の数値目標を定めております。 本計画では「野田市特定事業主行動計画」に基づく職場環境の整備(P59)と表現しており、数値化については、個別計画で対応いたします。 また、企業や市民に対し、職場環境の整備促進を推進するための啓発、子育て環境の整備充実を推進することとしています。(P58~59、P61~63) したがいまして、素案のままとします。	修正無し
5	野田市の合計特殊出生率が、全国平均や千葉県平均を下回っているという	3と同じ	修正無し

	意見の概要	市の考え方	案の修正
	ことは、若い世代が野田市に魅力を感じていないということに繋がる。市職員を見ても男性職員が育児休業を取った実績がないというのが現実だ。まずは、市の男性職員の育児休業目標を数値として表し、啓発に努めるべきではないか。		
第3章 計画の内容			
	基本目標 女性に対するあらゆる暴力の根絶		
6	D V 被害防止に向けて若年層への意識啓発の推進については啓発を進め、将来のD V 被害防止に努めますではなく、明確な取組の明記を。	若年層への意識啓発の推進につきましては、現在、国において若年層を対象とした啓発教材の開発や、D V 防止法における対象者の拡大などを検討しています。 本計画では「啓発」という表現で、今後国の動向を見ながら、明確な取組について、柔軟に対応していきたいと考えておりますので、素案のままとします。(P47)	修正無し